平成 25 年 12 月 31 日 社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 サイトワールド実行委員会 実行委員長 榑松武男

『サイトワールド 2013』報告書

はじめに

「ふれてみよう! 日常サポートから最先端テクノロジーまで」をコンセプトに、サイトワールドは、 視覚障害者の日常生活から就学就労までのすべてをサポートするあらゆる機器、情報、設備、サービス、 インフラ、そしてその研究などの紹介を、出展者も来場者も参加者すべてが主役となる展示会と、講演 会、セミナー、体験会など盛りだくさんの催しものにより、平成 18 年(2006 年)から世界初の試みと して開催してまいりました。

第8回となる今年は、11月1日が日本点字制定記念日に登録されたこともあり、「学ぼう 活かそう 点字から ITまで」をテーマに、点字にまつわる体験発表、講演、機器体験などと、同時に開催する イベントとして、ITを使いこなす実例の講演、視覚障害者の就労セミナー、障害者差別解消法、障害者の権利条約についての講演会などの企画は、まさに、視覚障害者の社会参加や社会との関わりのなかで、共生社会への実現を可能にするサイトワールドであったと思います。

今回は、3 つの講演会で手話通訳を行いました。サイトワールドへの関心は手話利用者にも広がっています。多くの皆さまの関心を集め、そのご協力とご支援によって、第 8 回の今年も盛会のうちに開催できましたことを感謝とともにご報告申し上げます。

1. 開催概要

- 名 称 サイトワールド 2013
- テーマ ふれてみよう!日常サポートから最先端テクノロジーまで
- 日 時 平成 25 年 11 月 1 日(金)、2 日(土)、3 日(日・文化の日)、午前 10 時~午後 5 時(最終日午後 4 時)
- 会 場 すみだ産業会館 サンライズホール 東京都墨田区江東橋 3-9-10 墨田区丸井共同開発ビル 8・9 階 (JR錦糸町駅南口前)
- 入場料 無料
- 主 催 社会福祉法人 日本盲人福祉委員会内 サイトワールド実行委員会
- 共 催 社会福祉法人 日本盲人会連合、社会福祉法人 日本盲人社会福祉施設協議会、 全国盲学校長会、 社会福祉法人 日本点字図書館、 社会福祉法人 日本ライトハウス、 社会福祉法人 視覚障害者支援総 合センター
- 後 援 内閣府、経済産業省、厚生労働省、文部科学省、東京都、墨田区、埼玉県、日本経済新聞 社、日刊工業新聞社、毎日新聞社東京社会事業団、朝日新聞厚生文化事業団、読売光と愛の 事業団、日本テレビ小鳩文化事業団、NHK厚生文化事業団、テクノエイド協会、日本ロ ービジョン学会、日本障害者リハビリテーション協会、ライフサポート学会、鉄道弘済会、 日本電気制御機器工業会、中小企業家同友会全国協議会 (順不同)
- ボランティア 墨田区社会福祉協議会、墨田区ボランティアサークル連絡会、点訳きつつき、霊友会 法友文庫点字図書館、都立橘高等学校、全国音訳ボランティネットワーク、有志の皆さま

2. 出展団体 (8階展示会場にて展示 42法人 51小間)

(㈱アイプラスプラス(東京)、(㈱アイフレンズ (大阪)、(㈱アステム (大阪)、(㈱アメディア (東京)、池野通建㈱ (東京)、(㈱インサイト (宮城)、(栒エクストラ (静岡)、 NHK放送技術研究所 (東京)、㈱NTTドコモ (東京)、m・y(㈱ (奈良)、(社福) 桜雲会 (東京)、オリンパスイメージング㈱ (東京)、神奈川工科大学 (神奈川)、KGS㈱ (埼玉)、(㈱KOSUGE (東京)、認定 NPO 法人ことばの道案内 (東京)、億サイパック (東京)、(㈱サン工芸 (京都)、(㈱ジェイ・ティー・アール (埼玉)、(社福) 視覚障害者支援総合センター (東京)、シナノケンシ(㈱ (長野)、セールス・オンデマンド(㈱ (東京)、ダイキン工業(㈱ (大阪)、(㈱タイムズコーポレーション (兵庫)、(㈱タナベ (京都)、テクノツール(㈱ (東京)、東京消防庁 (東京)、新潟大学 工学部福祉人間工学科 (新潟)、(㈱西澤電機計器製作所 (長野)、日本盲人社会福祉施設協議会盲人用具部会 (東京)、(社福)日本点字図書館 (東京)、(㈱日本テレソフト (東京)、(社福)日本盲人会連合 (東京)、パナソニック(㈱ (大阪)、侑フィット (長野)、(㈱ボース (埼玉)、三菱電機㈱(東京)、三菱電機・(東京)、三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三菱電機・(東京)、「三級・「東京)、「三級・「東京」、「「大阪」」、「「大阪」)、「「大阪」)、「大阪))、「大阪))(大阪))、「大阪)))、「大阪))、「大阪)

3. 今年のテーマ 『学ぼう 活かそう 点字から ITまで』

・点字宣言「未来へ点字をつなげる宣言」: 11月1日 午前10時30分~ 会議室1.2 プレゼンテーション: 筑波技術大学 学生サークル WOW 筑波大学 点字サークル「てんつく」 (第2会場 会議室4 「ディスプレイへの画像および要約筆記」の中継、「個人情報支援として 盲ろう者への復唱支援」等の情報保障のデモ)

体験発表「点字に救われて今がある」 : 11月1日 午前11時~ 会議室1.2講師: 杢代 絵三子 立川 純子 司会: 高橋 實(日本点字普及協会)

・講演会「点字と、音楽に支えられて」 : 11月1日 午後1時~ 会議室1.2講師: 和波孝禧(バイオリニスト)

- ・機器体験「点字の読みと書きに、こんな方法とこんな機器」:11月1日 午後2時~ 会議室1.2 司会: 藤野 克己(日本点字普及協会) Lサイズ点字の触読体験 凸面点字器の試作品公開
- ・セミナー「視覚障害者の就労 各種機器の利用状況」: 11 月 1 日 午後 1 時~ 会議室 4 視覚障害者のジョブコーチ支援と在職者訓練の実情

視覚障害者就労生涯学習支援センター 井上 英子(司会)

注文部品管理業務などにおける~画面拡大ソフトと拡大読書器の利用

リコーイメージング株式会社 遠山 高範

海外出張旅費・従業員数確認などにおける〜画面読み上げソフトと点字ディスプレイの利用 三菱樹脂株式会社 石浦 智美

おもちゃの共用品推進活動における~点字プリンタの利用

株式会社タカラトミー 高橋 玲子

点字名刺作成における~点字プリンタの利用

東京海上ビジネスサポート株式会社 兵藤 崇彦

就労支援機器貸出と実績、助成金制度について

高齢・障害・求職者支援機構 中央障害者雇用情報センター 正田 勇一

- ・ やさしくトーク「障害者差別解消法とは」手話通訳付: 11月2日 午前11時~ 会議室1.2 講師: 大胡田誠(弁護士 つくし総合法律事務所)
- ・やさしくトーク「| Tをわたしはこのように」手話通訳付: 11月2日 午後1時~ 会議室1.2講師: 岩下 恭士(毎日新聞デジタルメディア局)
- やさしくトーク「障害者の権利条約の状況」手話通訳付:11月3日 午前10時30分~ 会議室1.2 講師: 長瀬 修(立命館大学客員教授)

4. ライフサポート学会、企画展、発表会、セミナー等の開催

(1) ライフサポート学会 研究発表会 11月3日 午後1時~ 会議室1.2 アクセシブルな電子書籍製作におけるクラウドソーシングとオープン・コミュニティの導入

小林 正朋(日本アイ・ビー・エム(株) 東京基礎研究所)

澤村 潤一郎(社会福祉法人 日本点字図書館)

視覚障がい者教育のためのテキスト資料呈示システムの試作

大西 淳児、坂尻 正次、小野 束(筑波技術大学 保健科学部)

三浦 貴大(東京大学大学院 情報理工学系研究科)

タッチパネル型ピンディスプレイ

島田 茂伸(東京都立産業技術研究センター)、 下条 誠(電気通信大学) 音と触覚だけでも利用可能な視覚障害者向けバリアフリーゲームの開発

~誰でも楽しむことのできるアクション RPG を目指して~

松尾 政輝、坂尻 正次(筑波技術大学 保健科学部)

視覚障害者におけるタッチスクリーン端末の使用状況とボタン操作におけるアクセシビリティ

三浦 貴大(東京大学大学院 情報理工学系研究科)

工藤 輝希、北村 直也、坂尻 正次、大西 淳児、小野 束(筑波技術大学 保健科学部) 機能性材料を用いた医療福祉センサシステムの開発

~手軽に使ってもらえる点字センサを目指して~

奥山 武志(東北大学大学院 工学研究科)、田中 真美(北大学大学院 医工学研究科) 各演題の研究内容のデモンストレーション

(研究発表の内容を体験し、研究者との対話を行う時間が用意され、双方向の交流が行われた。)

企画・司会: 富田英雄 ライフサポート学会視聴覚障害者バリアフリー技術研究会 副委員長 東京電機大学 名誉教授

> 坂尻正次 ライフサポート学会視聴覚障害者バリアフリー技術研究会 委員長 筑波技術大学 保健科学部 情報システム学科 准教授

- (2) 企画展、発表会、セミナー、体験会
- ① 「ホシオ君と宇宙を楽しもう」・「茨城県自然博物館 ハートフルミュージアムがやってくる」

11 月 2 日 午前 10 時~午後 5 時 会議室 4

企画展・主催(対福)桜雲会・協賛 日本児童教育振興財団・後援 茨城県自然博物館 講師:嶺重 慎(京都大学 教授)、高橋 淳(水海道第一高校 教諭)、藤原 晴美(元横浜訓盲学院 教諭)

② 「全盲者による点図作成の研究成果発表」 11月3日 午前10時30分~ 会議室4 発表 荒川 明宏 (㈱ラビット)

発表会・主催 ㈱ラビット

- ③ 「モバイルアクセシビリティの最新動向」 11月3日 午後1時~ 会議室4 講師:石川 准(静岡県立大学 教授) セミナー・主催 静岡県立大学国際関係学部 石川研究室
- ④ 「障害を乗り越えた偉人たち~人生は喜びと感謝~」 11月3日 午前10時~午後4時 会議室5 企画展·主催(社福)桜雲会、(公財)杉山検校遺徳顕彰会、(公財)温故学会 講師:新子 嘉規(京都府視覚障害者協会 理事)、永沼 菜未(温故学会 研究員)、三浦 拓也(東京ヘレ ン・ケラー協会 理事長) (展示会・ツボ体験会・マッサージ等併催)
- ⑤ 「スマート点字、ヘレンケラーホン、体表点字体験会」 11 月 1 日 午前 10 時〜午後 5 時、 11月3日午前10時~午後4時 会議室3 体験会・主催 (社福)桜雲会
- ⑥ 「視覚障害者のための 聞こえについてのミニ講演会と相談会」 11月2日午前10時~午後5時 会議室3 相談会・主催 日本盲人会連合 情報部、認定 NPO 法人東京都盲ろう者友の会

5. 地震動の体験会 (提供 東京消防庁)

11 月 1 日午前 10 時~午後 5 時、2 日午前 10 時~午後 5 時、会議室 5

東京消防庁の地震動シミュレーター(地震ザブトン)を、昨年同様に会議室 5 に設置し、東京消防庁の 皆さんの指導と介助により地震を体験した。地震動シミュレーターは、全方向に動く一人乗りの自走式 の椅子が、想定される東海地震の高層建物における長周期地震動や、東日本大震災を含む過去に発生し た地震動を正確に再現するとともに、揺れと同期した室内映像をスクリーンに投影することにより、搭 乗者が地震動を体験することができるもので、2日間で約200名の方が体験しました。

昨年体験できなかった方々も、今年こそはと多く来られ、おおいに賑わいました。再現できる地震を すべて体験した猛者もおられ、地震と防災への衰えない関心の高さを示す体験会となりました。

6. 法律相談 • 年金相談 (無料)

11月1日、2日、3日 各午後1時~4時、 8階エントランス特設コーナー

今年は、法律相談を、1 日は、竹下義樹弁護士、2 日は、大胡田誠弁護士、3 日は、田中伸明弁護士 の3人の全盲の弁護士が日替わりで担当され、年金相談は、1日と3日は、中村嘉弘社会保険労務士、 2日は、﨑浦ひろ子社会保険労務士に担当いただいた。相談者は、合計で26名でした。

法律相談、年金相談への事前の問合せが、福岡県在住者を含め複数の方々からあり、ニーズの高いこ とが伺えました。会期中は、相談される内容によって、想定時間内に収まらず、次の方を待たせるケー スもありましたが、相談できたことを皆さん喜ばれていました。

例年の行事とするよう事務局に要望も寄せられており、実行委員会で検討する予定です。

7. 会場案内設備について

- ・ 点字案内板:日本で初の点字案内板を世に出した株式会社サン工芸より、サイトワールド 2013 展示会場のレイアウトを示す「点字案内板 BS-G 型」の提供を受け、入場口脇に設置しました。
- ・**点字ブロック**: 視覚障害者用安全装備のパイオニアの 一般財団法人安全交通試験研究センターの提供により、8 階会場入口に「点字ブロック」を敷設しました。
- ・音声案内システム: 池野通建株式会社の提供により、「音声標識ガイドシステム」の音声案内装置を、会場エレベータ付近、会場入口、トイレ付近、展示コーナー等に設置、来場者の利便に供しました。
- ・音声案内システム: レハ・ヴィジョン株式会社の提供により、「ポッチ シリーズ」の音声情報案内装置を8階9階のトイレに設置し音声案内しました。

8. 開会式

11月1日午前9時45分より、会場エントランスにて、開会式を挙行しました。主催者より、サイトワールド実行委員会委員長 榑松武男、日本盲人福祉委員会 理事長 竹下義樹より挨拶し、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室長 君島淳二様、墨田区長 山崎 昇様よりご祝辞をいただき、4名の方によりテープカットをいたしました。

9. 首かけカードとアンケートの実施、ヘルプカード兼用

8回目の開催となるサイトワールド 2013 では、行政関係(ピンク)、教育関係(水)、法人(団体・企業)(薄紫)、一般(白)の4区分で、来場者の所属が分かるよう、色別のカードを用意し、首からかけていただきました。また、この首掛けカードを振ることや、高く掲げることにより、ヘルプカードを兼ねることとしました。

カードの裏には、下記8項目の質問を印刷し、アンケートを行いました。

- ① 何回目のご来場ですか (1) 初めて (2) () 回目
- ② 印象に残ったイベント、テーマ、展示物などがございましたらご記入ください。 (複数可)
- ③ 運営について、お気づきの点ありましたらご記入ください。
- 4) 性別 男性 女性
- ⑤ 年齢 ()代
- ⑥ どちらから来られましたか。(都道府県名を回答ください)
- ⑦ 所属 (1) 行政関係 (2) 教育関係 (3) 法人(団体・企業等) (4) 一般
- ⑧ 自筆 or 代筆 いずれかに○を

弱視用に拡大文字でのアンケート回答用紙などを含め、1,464 通の回答がありました。 「サイトワールド 2013 アンケート集計」として、別冊にまとめましたので、参照ください。

10. 会場概況

ガイドブックの印刷開始後に、ポーランドの ALTIX 社より出展の意向が寄せられ、海外からの申し込みでもあることから、1 小間増設する対応をいたしました。今年は、スェーデンの Index Braille 社が代理店の紹介ではなく自ら出展したほか、例年通り代理店を通じてアメリカ、ドイツ、韓国、中国などの製品紹介があり、国際色もより豊かなサイトワールドとなりました。

来場者の会場での滞留時間が長いことは、サイトワールドの特徴ではありますが、アンケートに3日間来場されたことを示す記載があり、2日、3日と連日来られる方が多いことが資料的にも明らかにな

りました。また、毎年来訪され、出展者との交流を楽しみされている方も多くあること、事務局への会期前の問合せも年々増加の傾向にあることなどから、出展内容などの情報を把握して、楽しみと期待をもって来場されている方が多くあり、視覚障害者の年中行事となっていることを再確認する今年のサイトワールド会場でありました。

日盲社協盲人用具部会のブースを休憩所とした同会のアイディアは、多くの方に喜ばれました。会場内に休憩用の椅子を多く置くよう求めもありますが、避難経路確保の視点からも自ずと限界もあるところではあり、同会のブースは丁度いい位置になっていたことも幸いしました。

11 月 3 日には、ボランティアの都立橘高校の生徒さんを、各ブースにお一人ずつ配置して、お手伝いをお願いしました。それぞれ特徴も違い、生徒さんにとっても興味深い一日になったものと思います。また、会場内の案内ボランティアの方々も、各ブースの出展品や様子などの情報を事前に把握され、来場者の意向に即応できる準備を整えてくださったことは、視覚障害者にさりげなく寄り添われることであり、主催者として嬉しくありがたいことでありました。

11. 広報活動

今年は、1日に開催の視覚障害者の就労に関するセミナーには、ハローワークを管轄する東京労働局職業安定部の皆さまから、大いなるお力添えをいただき、都内のハローワークの障害者雇用相談窓口で、就労セミナーとサイトワールドのパンフレットを配布いただきました。特にハローワーク墨田の皆さまには、管轄の企業のご担当への声掛けなど積極的アピールしていただきました。

東京都の産業労働局には、同局のホームページで就労セミナーとサイトワールドを紹介いただきました。また、都内の企業約 300 社の障害者雇用担当にセミナーとサイトワールドの案内を郵送しました。この他、例年通り、サイトワールドのパンフレットとポスターを、全国の視覚障害者関連の施設、団体、盲学校、点字図書館等に配布を行い、また、出展者からも関係団体、個人等への広報活動を実施しました。会期 1 ヵ月前には、関東一円の約 700 の自治体の福祉関係部署宛に、パンフレット等の DM を郵送しました。

日本点字図書館発行のデイジーマガジンでサイトワールドを特集として8月、9月の2回にわたって紹介されたこともあり、事前情報としてのパンフレット、ガイドブック(点字・墨字)の送付依頼が約30件あり、これまでの登録と合わせ、300人を超える方々に発送しました。

NHKラジオの電話取材もあり、イベント情報として案内が放送されました。その他、NHK ラジオ第2放送、山梨放送、JBニュース、日刊工業新聞、雑誌「視覚障害」等にて報じられました。

12. 警察、駅関係

これまでと同様、サイトワールド開催に先立ち、本所警察署、錦糸町駅北口・南口交番、JR 錦糸町駅、地下鉄錦糸町駅、JRAウィンズ錦糸町の方々に、サイトワールドの開催をお伝えし、交通警備、案内等の特段の配慮と協力をお願いしました。

13. 設備工事

会場の小間設置、電気配線工事は、㈱ボックス・ワン、街坂田電気工事に発注しました。

14. 来場者数

会期中の来場者数 延べ約 5,600 名

15. サイトワールド総括

(1) イベントについて

「学ぼう 活かそう 点字から ITまで」のテーマは、視覚障害者の社会参加や社会との関わりを改めて考えることにつながりました。

1日午前の「未来へ点字をつなげる宣言」で、筑波技術大学の学生諸君は、「点字は、読みたい願いを叶え、書きたい気持ちを実らせ、支えたい思いを受け止める、正統な文字の一つである」と宣言しました。人が意思や気持ちを伝えあうために用いる全ての方法を、真に平等に保障することは、人の尊厳を根底から支えること、そして、いま、同じ時代を生きているはずなのに、一方では自由に、自分の情報利用の方法を保障されている人がいて、一方で、情報利用の方法の保障が、なされていない人がいると、宣言の中で指摘もしました。

同日午後のセミナー「視覚障害者の就労 各種機器の利用状況」は、視覚障害の方々に、業務内容と支援機器の使い方、特に業務上で効果的な点と、難しい点を挙げていただき、そのソフトやハードの提供者に、課題の解決方法や、将来の見通しを語っていただく企画でした。視覚障害者は多様な分野で働き、企業や社会に貢献しています。その活躍は、各種の支援機器に支えられている側面があり、これらの機器やシステムを企業の人事担当者に知っていただくことが目的でした。東京労働局、ハローワーク、東京都産業労働局などの官公庁の皆さま、中央障害者雇用情報センター、東京しごと財団の皆さまの支援をいただき、企業の方々を迎えることができました。上述を目的としていましたが、当日の会場には、視覚障害の当事者が多数お出でになり、会場に入りきれず、お断りする場面もありました。このことは、当事者自身、どのような支援機器を使いこなせればよいのか、また、他の人の事例も知りたいという切実な事柄の反映と思われます。この企画は、視覚障害当事者の切実なテーマであり、企業経営者、人事担当の方々により理解していただきたい背景からも、サイトワールドが目指す方向でもありますので、是非、次回もこのような企画を考えねばならぬインパクトのあるセミナーとなりました。

1日の体験発表「点字に救われて今がある」、和波孝禧氏の講演「点字と音楽に支えられて」、機器体験「点字の読みと書きに、こんな方法とこんな機器」は、特定非営利法人 日本点字普及協会の皆さんの企画により実施しました。点字によって学ばれたこと、生活の中での点字など、文字としての大事なことを伝えるものとなり、和波さんの「点字に触れると音が浮かぶ、指で読んだ記憶は鮮明であり、思考回路と指はつながっている」の言葉は、点字が文化であることを思い起こさせました。

やさしくトークと題し、2日の大胡田誠弁護士「障害者差別解消法とは」、岩下恭士氏「ITをわたしはこのように」、3日の長瀬修教授「障害者の権利条約の状況」の3つの講演会を行いました。大胡田弁護士は、解消法は障害者自身が何が不当かを訴えないと何も始まらない仕組みであり、遠慮せずに勇気をもって声を上げようと訴えられました。岩下氏は、ご自身が使うスマートフォンを題材に、スクリーンリーダーの実演を織り交ぜ、視覚障害者にとっての利便性や実践的な使用法を説かれました。長瀬教授は、"Nothing about us without us"(私たち抜きに私たちのことを決めるな)が、権利条約の策定の過程において、すべての障害者の共通の思いを示すものとして使用されたことを講演の冒頭話されました。日本では権利条約の批准の前に、制度改革が進められる状況で、差別解消法などが制定されてきた状況を話されました。

この3つの講演会には、手話通訳をつけました。これは、手話利用者がサイトワールドに来られているためですが、事務局に寄せられたメールで、「視覚障害者のイベントのサイトワールドで紹介されるユニバーサルデザインの製品が、聴覚障害者にとっては、どのようなものか、毎年参加してチェックしてきました。講演に通訳が付喜んでいます。」というものがあり、サイトワールドへの関心の広がりを

強く実感するものとなりました。手話通訳をつけたことは、障害バリアフリー解消のためであり、権利 条約の理念や、差別解消法の施行に伴う社会の発展に、サイトワールドもコミットする姿勢を示すもの となったもの思います。

(2) 展示会場について

8 階の展示会場では、お掃除ロボットをはじめとして、世間で話題ともなっている製品が出展されたこともあり、各ブースの賑わいは続いていました。家電メーカー中心に、視覚障害者だけでなく、まさに、老若男女などの差異、障害・能力の如何を問わずに利用できるユニバーサルデザイン製品も多く紹介されており、視覚障害者の QOL 向上の情報が豊かに提供されていました。

神奈川工科大学高尾人間工学研究室が参考出展した視覚障害者向け立体音響ナビゲーションシステムは、ヘッドホンから聞こえる立体音響を利用して歩行中に周辺の施設などを音声案内するものですが、施設位置の距離や方向を音で確認する体験デモに、参加した方の最初はおそるおそるといった歩みが、だんだん楽しそうな歩みに変わった様子に、学生さんたちの研究も大いに進んだようです。

点字(誘導)ブロックに IC タグを内蔵し、その情報を白杖に組み込んだレーダーでキャッチする誘導方法なども紹介され、安全で快適な歩行誘導を目指す研究や開発が、大学や民間企業で熱心に行われていることが改めて知らされる会場の様子でした。

新潟大学福祉人間工学科の研究は毎年の来場者の楽しみとなっているようです。星座早見盤に触って 宇宙へ想いを馳せた方が大勢おられました。

また、会場にも盲導犬ユーザーは多く来場されていますので、仕事中の犬に触ったりすることはルール違反となることを皆さんよくご存知でもあり、盲導犬協会のブースで休憩中の盲導犬との交流は心が癒される一時ともなったようです。盲導犬の体験も大勢の方が体験され、理解が広がっています。

NTT ドコモのブースは、スマートフォンの視覚障害者への普及が加速していること示す、熱気にあられたものになっていました。また、タブレット端末を視覚に頼らず操作する研究の発表など、新しいものへの挑戦は、出展者にも、来場者にも共通しています。

点字ディスプレイ、デイジー関連製品、携帯型拡大読書器、音声拡大読書器など、情報取得のための機器の新製品や機能の充実の発表が、サイトワールドを機に行われることが多くなっています。今回も来場者の関心を集め、それぞれのブースでは、熱心な交流がありました。

今年も、東京消防庁の皆さまに、防災への啓発のための広報と相談コーナーを開設していただきました。視覚障害者は災害時には要援護者となりますが、災害時の対応を日頃から備えておくことは、視覚障害者だけでなく、誰にとっても重要なことです。また、東京都葛飾福祉工場の提供により、防災グッズを展示しました。防災グッズにはどのようなものがあるか、憶えていただき、万一の際にはその記憶が役立つよう願うところです。サイトワールドは、生活のすべてに関連する展示や紹介がありますので、災害に備えることも、忘れないようにしたいと考えています。

(3) ボランティアについて

サイトワールドはボランティアによって支えられています。今回ご協力いただいたボランティアの皆さまにアンケートを行い、貴重なご意見をいただいたところです。次回のサイトワールドの運営に反映させてまいりたいと考えています。

ボランティアの皆さんから来場者の様子も浮かび上がってきます。アンケートには、「目的を持って来ている人が多い」、「皆さま本当に楽しみして来ている」、「帰りの誘導で皆さんロ々に楽しかった。こ

こには最先端の機器があるのが魅力的だと言っていた」、「今日は来場者が多く見切れなかったという意見、ガイドが足りないとか、充分とも、両方の意見が出ていた」、「ひとりで来られた方が多かった」、「付添いの方と来る人が多い」、「最初のときより慣れてきた人が多い」等の記載があり、印象も様々であるようです。

主催者への注文に、「来場者の休む場所が不足している。会場のトイレが不足」、「ブースにもう少しゆとりがあればと思う、列ができたときなど整理がうまくいかないようだ」、「もっと宣伝(一般に対して)できませんか」、「重く大きな荷物を持った方が、預けたいとおっしゃいます」、「男性をトイレに案内するのに少し担当する男性の方が欲しい」、「もっと大勢のボランティアを募ってもらいたい」、「場内の点字案内版に気づかれない方が多いです」等がありました。

ボランティアの感想として、「自分の目配り、気配りの足りなさに気付いた、次は少しでも改善したい」、「目的を持って来られている方に対し、もう少し知識を入れなければ対応できないと実感した」等あり、「主催者さま、大変でしょうが、期待している方がおりますので、これからもよろしくお願いします」に励まされるところです。

そして「ボランティアにチョコレート配る視覚障害者の方が居ました」から、来場者にもボランティアに感謝の念を表す方もおられるようです。

16. 第9回サイトワールドの開催について

『サイトワールド 2014』は、日本点字制定の日の平成 26 年(2014 年) 11 月 1 日(土) から 3 日間、 会場も同じ、すみだ産業会館サンライズホールにて開催いたします。

17. 実行委員会構成

実行委員長 榑松武男 (KGS株式会社代表取締役)

副実行委員長 田中徹二 (社会福祉法人 日本点字図書館 理事長)

実 行 委 員 有 泉 一 如 (社会福祉法人 日本盲人会連合)

リ 稲 垣 誠 (株式会社ラビット)

川 岡村 匠 (株式会社ジェイ・ティー・アール)

リ 諏 訪 部 俊 彦 (株式会社サン工芸)

リ 中山政義 (社会福祉法人 日本盲人福祉委員会)

リ 古 舘 敦 宏 (池野通建株式会社)

リ 望月 優 (株式会社アメディア)

リ 山 岸 秀 和 (シナノケンシ株式会社)

事務局長 近藤義親 (社会福祉法人日本盲人福祉委員会) (50 音順)

18. サイトワールド実行委員会 事務局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-18-2 社会福祉法人 日本盲人福祉委員会 内

電話: 03-5291-7885 FAX: 03-5291-7886

19. 会計報告は別紙の通り

おわりに

初日のオープンセレモニーで榑松武男実行委員長は、「ITの活用で障害者の就労や就学上のバリアがどのように克服されるのかを多くの人々に知っていただきたい」と挨拶しましたが、これは、サイトワールドをスタートさせた時からの、実行委員会、関係者の共通の思いでありました。

2013 年 12 月 4 日に参議院本会議は、国内の法律が条約の求める水準に達したとして、障害者の権利条約の批准を承認しました。2016 年 4 月の障害者差別解消法の施行向けて対応指針作りが本格化する状況です。

私たちの社会は変わりつつありますが、視覚障害者向けのイベントであるサイトワールドの創設の理念をますます推し進めてゆくことの重要さの認識を強くするものであります。

皆さまとともに、サイトワールドを育ててまいります。第 9 回の準備(2014 年 2 月よりスタート)が始まります。皆さまのご支援·ご協力を心よりお願いいたし、『サイトワールド 2013』報告書の結びといたします。

以上

開会式



右より、山崎 昇墨田区長、君島淳二厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部 企画課自立支援振興室長、 竹下義樹日本盲人福祉委員会理事長、榑松武男サイトワールド実行委員長



受付付近



岩下 恭士氏(毎日新聞デジタルメディア局)



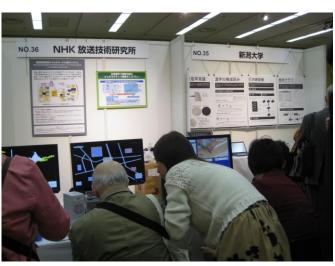
和波 孝禧氏 (バイオリニスト)



長瀬 修教授(立命館大学)



大胡田 誠弁護士(つくし総合法律事務所)



会場風景



会場風景



会場風景 ↑ ↓





地震ザブトン(東京消防庁)



会場風景 ↑

